

平成30年度 事務事業評価報告書

令和元年 8 月30日

総務産業常任委員会

総務産業常任委員会による事務事業評価

○評価対象事業名：観光交流活動創出支援事業

1 事業の目的

市外からの誘客拡大によって、市内での消費活動を促進するために実施していた「観光誘客促進事業」（平成27年度～）と「日本のへそコンベンション支援事業」（平成28年度～）を統合再編し、消費活動への効果が高い宿泊客と団体客の誘客を促進するため、補助金を交付し支援する。

2 計画等の位置づけ

(1) 総合計画の位置づけ

「西脇市総合計画・後期基本計画」

第2章 第2節

にぎわいを創出する観光と多彩な交流【観光・交流】

① 魅力ある観光資源の創出と活用

- ・民間旅行会社などと連携して、地域資源と体験・交流活動を組み合わせた観光ルートの開発や、点在する地域資源のネットワーク化を進め、宿泊客を含めた観光客の増加を図る。
- ・ホームページやSNS、マスメディアなどの様々な媒体を活用し、季節のイベントや見どころなど鮮度の高い観光情報をリアルタイムに発信することで、誘客の増加を図る。

(2) 施策体系へ事業の位置づけ

関連計画 - 「西脇市観光交流推進ビジョン」（平成28年策定）

- ① 基本目標：「地域経済に貢献する観光交流活動を生み出す」
- ② 基本戦略：「集客交流型観光の創出」

☆取組内容

① 「集客交流イベントの開催促進」

- ・市内の施設間連携による集客交流イベントの実施提案
- ・イベント主催者が施設を利用しやすい仕組みの検討

② 「西脇市ならではの集客交流イベント会場の提案」

- ・公共空間や地域特性を生かした特別な会場の選定
- ・特別な会場等でのイベント開催の支援

③ 「集客施設等の来客の市内他施設への誘導」

- ・集客施設利用者や行政視察等による訪問者を飲食店等に誘導する仕掛けづくり

④ 「集客交流イベントの誘致促進」

- ・イベント主催者に対する助成・効果の検証

3 当該事業の概要

(1) 実施年度 平成30年度～

※従前の「観光誘客促進事業」（平成27年度～）と「日本のへそコンベンション支援事業」（平成28年度～）を統合

(2) 平成30年度総事業費： 4,000千円

※予算額／団体型旅行：2,500千円、個人型旅行：1,500千円

(3) 実施内容

① 団体型旅行助成

次の全ての要件を満たす旅行を実施する業者等に対し助成

- ・ 借り上げバス等を利用する大人（中学生以上）25人以上の団体旅行
- ・ 西脇市内で食事または宿泊（食事付き）
- ・ 西脇市内の観光集客施設を2カ所以上・うち1カ所以上は有料施設訪問
- ・ 助成額／貸切バス代1人 500円と市内施設での食事代・宿泊代・入場料等の半額バス1台当たり日帰りは5万円または6万円、宿泊は7万円または9万円

② 個人型旅行助成

市内のゴルフ場を平日(土曜日・日曜日・祝祭日を除く日)に利用し、宿泊（利用日または利用前日）する旅行への助成

- ・ 助成額／1人 4,000円

③ 合宿・コンベンション助成

市内の民間宿泊施設（ホテル・旅館）で宿泊し、市内の有料施設を利用した合宿・コンベンションの開催に助成

- ・ 宿泊人員が15人以上で、かつ、延べ宿泊人員が30人以上
- ・ 助成額／宿泊料 1人につき 1,000円

合宿・コンベンションの施設利用料 経費の2分の1（上限額3万5千円）

上記の宿泊料と施設利用料金をあわせ、助成の上限額は7万円

4 成果と課題

観光交流活動創出支援事業は、従前の観光誘客促進事業(平成27年度～)と日本のへそコンベンション支援事業(平成28年度～)を一本化したものである。

昨年度に比べ団体旅行利用者全体としては18.9%増えているが、そのうち、日帰り利用は30.3%増となっているものの、宿泊利用は半数以下の51.3%減少している。

また、ゴルフ利用の個人型旅行は14.3%減、コンベンション利用も21.5%減となっている。

数字から見れば、あまり増えていないように見えるが、いかに市内でお金を使っただけのことも重要であり、市内消費額は前年比15.8%増となっていることから見れば、成果はあったと判断できる。

しかし、この助成があるから西脇市を訪れていることも考えられることから、助成がなくても来ていただける西脇市への観光誘導として、観光地や観光施設だけでなく、食や地場産品も含めた魅力づくりと、リピーターの確保が必要と考える。

また、コンベンションは、西脇ロイヤルホテルに集中しているが、会場の広さや設備から考えればやむを得ないといえるものの、若者の合宿等も含めて、付帯条件として市内の観光地を必ず見学する等の還元策も検討すべきと考える。

合わせて、6月3日に西脇市の観光入込客数の約34%、年間42万人が訪れている道の駅北はりまエコミュージアム（北はりま田園空間博物館総合案内所）の現状と今後の課題について指定管理者であるNPO法人理事と意見交換会を行い、「駐車場やトイレの不足」、「国道175号西脇北バイパス開通後の対応」、「日本の中心地であることをアピールするための「日本へそ公園」の充実」、「小さな観光スポットとのネットワーク」、「外国人観光客対応」など、様々な意見や課題が出されたので、今後の観光振興に生かされたい。

また、平成28年に策定された観光交流推進の指針となる「西脇市観光交流推進振興ビジョン」は3年を経過し、10年計画の中期に入っていることから、前期を踏まえた検証が必要と考える。

5 総務産業常任委員会が事業評価を行うにあたって

総務産業常任委員会の平成30年度事務事業評価対象事業は、「観光交流活動創出支援事業」と「公園施設長寿命化対策事業」の2事業としていたが、「観光交流活動創出支援事業」については、国宝級の史跡など大きな観光資源に乏しい本市ではあるが、今後の観光交流振興の推進は重要であること、さらに、本市最大の入込客数を誇る道の駅（北はりま田園空間博物館総合案内所）の現地調査を踏まえ、評価対象事業に決定した。

なお、公園施設長寿命化対策事業については、公園施設の修繕が主であり、予算内で順次必要な箇所から改修等を実施していることから評価が難しいと判断した。

評価については、委員7人で議論し、5段階の評点及び総合評価を踏まえ、今後の方向性を明らかにした。

6 事業評価（5段階評価）

委員7人の平均で評価点を付けた。

(1) 妥当性／3.4

- ・観光交流人口を増やすことという観点からは、大多数の委員が実施すべきとしている。
- ・前年度に比べ、団体旅行利用者や市内消費額が増えていることから一定の成果は上がっていると半数以上が判断している。
- ・行政が行うべき事業ではない、他事業とサービスが重なっている、他自治体と同じような内容である、との意見が一部あった。
- ・市民全員のためにはなっていないと判断した委員が約半数を占めている。

以上のような評価が出されたが、全委員からの妥当性の観点からの評価を平均する

と「3.4」であった。

(2) 有効性／3.1

- ・事業効果は上がっているか、目標は達成できているか、目標設定が低くないかなど、有効性については、ほとんどの委員が「どちらともいえない」と判断している。有効性の観点から、評価点を平均すると「3.1」であった。

(3) 効率性／2.9

- ・実施方法の適切さや民間への業務委託、受益者負担など、効率性については、「良好」と判断した委員は約1/3である。
- ・「どちらともいえない」と判断した委員は半数以上占めている。効率性の観点から、評価点を平均すると「2.9」であった。

(4) 総合評価／3.1

総合評価は、全委員平均「3.1」であり、数字から見れば「どちらともいえない」との評価と言えるが、「助成額を増加し観光誘客を凶れ」や「民間が努力すべき事業である」、「成果はあった」、「改善の余地はある」など、様々な評価となっており、まとめることはできなかったが、平均点を総合評価とした。

なお、各委員の意見は、「7 今後の方向性」の最後に示している。

7 今後の方向性

「見直しのうえ継続すべき」

前記6の事業評価で示したとおり、総合評価は3.1であり、また、5段階の評価指標としては3の「普通」との結果が出ている。

今後の方向性では、「拡充」が1人、「現状のまま継続すべき」2人、「見直しのうえ継続すべき」3人、「廃止」1人と、意見は分かれたが、協議の結果、今後の方向性は「**見直しのうえ継続すべき**」とした。

なお、各委員から出された下記の意見も参考にされたい。

○「拡充」に関する意見

- ・助成額を更に増加し、市の持つ観光資源やイベントをPRすることによって、まだまだ観光誘客を増やす可能性がある。

○「見直し」に関する意見

- ・今後は観光協会のあり方も見直し、市内関連事業者との連携を深め、インバウンドも見据えた事業に発展させる方向を検討すべきである。まずは市内消費額1億円を目指すべき。
- ・西脇市を訪れた人たちに、市のPRや市内でより多くのお金を使ってもらうための工夫について、他自治体の実施例等を研究することによって改善をする余地が

ある。

- ・助成がなくても来ていただける魅力づくりと、リピーターの確保が必要
- ・合宿等も含めて、市内の観光地を必ず見学する等の策も検討すべき。
- ・西脇市の知名度においては「知らなかった」33%、訪問経験なしが30%になっておりまだまだPRが足りない。
- ・団体旅行の主催者は旅行社が多く、大阪府・鳥取県・岡山県・広島県から来られており継続することによって範囲が拡大するものと期待している。
- ・5年を経過した段階で事業を根本的に見直した方が良い。金(補助金)の切れ目が西脇市との縁(観光)の切れ目にならないような施策を検討すべき。

○「廃止」に関する意見

- ・民間が努力する課題であり、行政は広報等で協力すれば良い。

○「現状」に関する意見

- ・市内でお金を使っただけのかが重要であり、市内消費額は15.8%増となっていることから見れば、成果はあったと判断できる。
- ・年々利用者数も増えている。実績額も増加しているので成果はある。